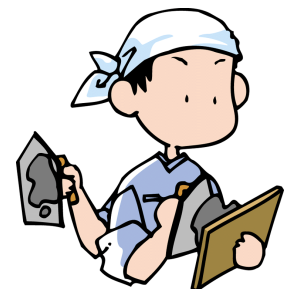


■正誤問題 (過去に出題された選択肢) 28 問

○×で回答して下さい。答えが×になった場合は、どこが間違っているのかも考えてみましょう。

1. 上塗りは、中塗りの2日後に、硬化の程度を見計らい行った。
2. 上塗りには、下塗りに比べて、セメントに対して砂の割合が小さいものを用いた。
3. 中塗りは、下塗り後2週間以上放置してから行った。
4. 中塗りは、乾燥した下塗り面に十分な水湿しをしてから行った。
5. 下地面は、デッキブラシで水洗いを行い、モルタルの接着を妨げるものを除いた。
6. 冬期において、下地コンクリート床面に、セルフレベリング材を塗り、14日間の養生期間を置いた。
7. 内壁の一般塗装における下地コンクリート面に、塗厚20mmのセメントモルタルを塗り、金ごて仕上げとした。
8. コンクリート下地のセメントモルタル塗りの壁において、下塗りには、上塗りより荒目の砂で貧調合のモルタルを使用した。
9. 壁のセメントモルタル塗りにおいて、むら直し部分が比較的大きかったので、塗り付け後、荒らし目を付け、7日以上放置した。
10. せっこうプラスター塗りの上塗りにおいて、加水後90分以上経過したプラスターは、使用しなかった。
11. 中塗り後、乾燥が進んだので、上塗り前に水湿しを行った。
12. 木造住宅の外壁のメタルラス張りに先立ち、防水紙を縦横とも30mm重ね合わせてたるみのないように張った。



13. 冬期におけるコンクリート下地床のセルフレベリング材塗りにおいて、流し込み後、14日間の養生期間を置いた。
14. せっこうプラスター塗りの上塗りにおいて、プラスターは、加水後120分を目安に使い終えた。
15. 屋内において、下地面となるコンクリート壁の水洗いが困難であったので、デッキブラシを用いて清掃した。
16. コンクリート壁面へのセメントモルタル塗りは、下塗り→むら直し→中塗り→上塗りの順で行った。
17. コンクリート壁面へのセメントモルタル塗りにおいて、各層の1回当たりの塗り厚は7mm以下とし、仕上げ厚(塗り厚の合計)は20mmとした。
18. コンクリート壁面へのロックウールの吹付けに当たって、吹付け厚さは、仕上げ厚さの1.2倍程度とし、吹付け後、こてで圧縮して所定の厚さに仕上げた。
19. 下塗りに先立ち、下地の乾燥状態を見計らって、吸水調整材を全面に塗り付けた。
20. コンクリート下地における不陸等の著しい箇所は、目荒し、水洗い等を行った後、モルタルで下地処理した。
21. 屋内の床面のセルフレベリング材塗りにおいて、流し込み後、硬化するまでの間は、窓や開口部を開けて通風を確保した。
22. 内壁のセメントモルタル塗りにおいて、一般塗装の下地面とする場合は、金ごて仕上げとした。
23. セメントモルタル塗りにおいて、1回に練り混ぜるモルタルの量は、60分以内に使い切れる量とした。
24. せっこうプラスター塗りにおいて、塗り作業中は、甚だしい通風は避けた。
25. モルタル塗りにおいて、下地となるコンクリート面を塗付け前に清掃し、水湿しを行った。
26. プレキャストコンクリート下地へのしっくい塗りに当たって、のりとすさを混入したしっくいを用了。
27. しっくい塗りは、下塗り、鹿子すり、中塗り、上塗りに分けて行った。
28. せっこうプラスター塗りにおいて、中塗りが半乾燥の状態のうちに、上塗りを行った。

■正誤問題 解答編

1. 上塗りは、中塗りの2日後に、硬化の程度を見計らい行った。

1. ○

2. 上塗りには、下塗りに比べて、セメントに対して砂の割合が小さいものを用いた。

2. × セメント:砂の容積比は、下塗りでは 1:2.5 上塗りでは 1:3 程度とします。下地側に塗られるものほど強度が大きくなるように。

3. 中塗りは、下塗り後2週間以上放置してから行った。

3. ○ 2週間以上放置し、乾燥収縮によるひび割れなどを生じさせます。



4. 中塗りは、乾燥した下塗り面に十分な水湿しをしてから行った。

4. ○

5. 下地面は、デッキブラシで水洗いを行い、モルタルの接着を妨げるものを除いた。

5. ○

6. 冬期において、下地コンクリート床面に、セルフレベリング材を塗り、14日間の養生期間を置いた。

6. ○

7. 内壁の一般塗装における下地コンクリート面に、塗厚 20mm のセメントモルタルを塗り、金ごて仕上げとした。

7. ○

8. コンクリート下地のセメントモルタル塗りの壁において、下塗りには、上塗りより荒目の砂で貧調合のモルタルを使用した。

8. × 下塗りには、上塗りよりも荒目の砂を用いるが、モルタルの調合は富調合とします。

9. 壁のセメントモルタル塗りにおいて、むら直し部分が比較的大きかったので、塗り付け後、荒らし目を付け、7日以上放置した。

9. ○

10. せっこうプaster塗りの上塗りにおいて、加水後 90 分以上経過したプasterは、使用しなかった。

10. ○

11. 中塗り後、乾燥が進んだので、上塗り前に水湿しを行った。

11. ○

12. 木造住宅の外壁のメタルラス張りに先立ち、防水紙を縦横とも 30mm 重ね合わせてたるみのないように張った。

12. × ラス下地においては、防水紙は下方から張り付け、継ぎ目部は幅 90mm 以上重ね合わせます。

13. 冬期におけるコンクリート下地床のセルフレベリング材塗りにおいて、流し込み後、14 日間の養生期間を置いた。

13. ○ セルフレベリング材塗り後の養生期間は、一般に 7 日以上、冬期は 14 日以上とします。

14. せっこうプラスター塗りの上塗りにおいて、プラスターは、加水後 120 分を目安に使い終えた。

14. × せっこうプラスターの上塗りには、90 分以上経過したものは使用しない。なお、下塗り及び中塗りには、加水後 120 分以上経過したものは使用しない。

15. 屋内において、下地面となるコンクリート壁の水洗いが困難であったので、デッキブラシを用いて清掃した。

15. ○

16. コンクリート壁面へのセメントモルタル塗りは、下塗り→むら直し→中塗り→上塗りの順で行った。

16. ○

17. コンクリート壁面へのセメントモルタル塗りにおいて、各層の 1 回当たりの塗り厚は 7mm 以下とし、仕上げ厚(塗り厚の合計)は 20mm とした。

17. ○ 原則として 1 回の塗り厚は 7mm 以下、全塗り厚は 25mm 以下とします。

18. コンクリート壁面へのロックウールの吹付けに当たって、吹付け厚さは、仕上げ厚さの 1.2 倍程度とし、吹付け後、こてで圧縮して所定の厚さに仕上げた。

18. ○

19. 下塗りに先立ち、下地の乾燥状態を見計らって、吸水調整材を全面に塗り付けた。

19. ○

20. コンクリート下地における不陸等の著しい箇所は、目荒し、水洗い等を行った後、モルタルで下地処理した。

20. ○

21. 屋内の床面のセルフレベリング材塗りにおいて、流し込み後、硬化するまでの間は、窓や開口部を開けて通風を確保した。

21. × セルフレベリング材に風が当たると、表層部分が動いて硬化後にしわが発生する場合があります。したがって、セルフレベリング材が硬化するまでは、甚だしい通風は避けるようにします。

22. 内壁のセメントモルタル塗りにおいて、一般塗装の下地面とする場合は、金ごて仕上げとした。

22. ○

23. セメントモルタル塗りにおいて、1 回に練り混ぜるモルタルの量は、60 分以内に使い切れる量とした。

23. ○

24. せっこうプラスター塗りにおいて、塗り作業中は、甚だしい通風は避けた。

24. ○

25. モルタル塗りにおいて、下地となるコンクリート面を塗付け前に清掃し、水湿しを行った。

25. ○

26. プレキャストコンクリート下地へのしっくい塗りに当たって、のりとすさを混入したしっくいを用いた。

26. ○

27. しっくい塗りは、下塗り、鹿子すり、中塗り、上塗りに分けて行った。

27. ○

28. せっこうプラスター塗りにおいて、中塗りが半乾燥の状態のうちに、上塗りを行った。

28. ○

左官工事も毎年
必ず出題されとるよ。

